

No.	年度	種類	監査結果報告日	担当部名	担当課名	意見等・指摘項目	概要	対応状況	完了時期 (完了予定時期)	会計区分①	会計区分②
1	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	経営状況について	改革プランの最終年度である当年度は単年度での黒字化が大きな目標の1つであったが達成できなかった。なお一層の収支改善に努めること。	その他・対象外		公営企業(病院)	
2	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	宝塚市立病院改革プランの検証結果について	「宝塚市立病院改革プラン」の対象期間が終了し、今後は「宝塚市立病院中期事業計画2014」に基づいた取組が進められる。今後とも経営の健全化に努めること。	その他・対象外		公営企業(病院)	
3	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	補てん財源について	平成25年度当初予算において一時借入金を補てん財源の一部に充てている。一時借入金を4条予算の補てん財源とすることは好ましくない。	その他・対象外	令和2年3月	公営企業(病院)	
4	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	特名随意契約について	類似業務の委託契約4件を統合した案件があるが、結果的に統合前と同額随意契約となり、統合後の契約額は統合前より高くなっている。	完了	平成27年3月	公営企業(病院)	
5	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	器械備品について	修繕費の固定資産勘定への振り替えについて、GT装置の管路交換は2年に1回取替える定期的な修繕であり、固定資産勘定への振り替えは適切なものか疑問である。	その他・対象外		公営企業(病院)	
6	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	未収金対策について	平成25年度の患者自己負担金に係る未収金は7,689万円となっている。納付誓約など時効中断の措置を講じ、安易に消滅時効が完成してしまわないように努めること。	完了	平成27年3月	公営企業(病院)	
7	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	薬品の在庫管理について	薬品の在庫管理について、病棟の薬剤師など現場の職員と協議の上、薬品の配置が適正な数量となるよう検討すること。	完了	平成27年3月	公営企業(病院)	
8	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	一般会計からの繰入金金の精算について	一般会計からの繰入金額について、決算額確定が翌年度になるため繰入額は予算額が上限となる。繰入基準に基づいて計算した額と差異が生じている。	その他・対象外		公営企業(病院)	
9	26	決算	H26.8.27	市立病院	市立病院	時間外勤務について	時間外勤務の縮減は、必ずしも人件費の抑制にはつながらないが、職員の健康管理やモチベーション向上に資する。引き続き時間外勤務の縮減に努めること。	その他・対象外		公営企業(病院)	
10	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	経営状況について	当年度決算は純利益が生じ、経営状況が大幅に改善されたように見えるが、新会計基準の適用による影響額を除いた試算では純損失が生じており、前年度よりも収支が悪化している。早期の単年度収支の黒字化に向けて、なお一層の収支改善に取り組むこと。	その他・対象外		公営企業(病院)	

No.	年度	種類	監査結果報告日	担当部名	担当課名	意見等・指摘項目	概要	対応状況	完了時期 (完了予定時期)	会計区分①	会計区分②
11	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	中期事業計画2014における経営改善の取組について	宝塚市立病院中期事業計画2014について、平成26年度に見込んだ当年度純利益が、決算額では見込みに及ばなかった。根本的な黒字化への転換に当たって更なる分析が必要である。	その他・対象外		公営企業(病院)	
12	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	経営効率の検証について	本年度の職員給与費対医業収益比率が依然として高い水準にある。また、百床当たりの職員数は全国平均より多くなっている。早期に原価計算方法を確立し、職員の効率的な配置も含めた経営改善に取り組むこと。	その他・対象外		公営企業(病院)	
13	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	物品管理システム(新SPD)導入による効果について	診療材料の棚卸高が、前年度よりも増加する結果となっていた。また、棚卸数量とシステム在庫数に差異が生じていることが判明した。システムに蓄積されたデータを活用し、物品供給センターでの適正在庫の管理に努めること。	完了	平成28年3月	公営企業(病院)	
14	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	変更契約(委託)について	物品管理業務委託については、特名随意契約にて契約した後、後日減額する変更契約を行っていった。安易な変更契約とならないよう、契約に際しては事前に慎重な検討、協議を重ねるよう努めること。	完了	平成28年3月	公営企業(病院)	
15	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	未収金対策について	督促状の発送日や法律事務所への債権回収の依頼日が大幅に遅れている事例が見受けられた。マニュアルに基づいた適切な債権管理に努め、病院として独自の対応ができないためあれば速やかに弁護士事務所へ債権回収を委託し、未収金回収率の向上に努めること。	完了	平成28年3月	公営企業(病院)	
16	27	決算	H27.8.24	市立病院	市立病院	患者自己負担金の債権放棄について	平成26年度の債権放棄において、市議会に行った債権放棄の報告の金額と、実際に債権放棄した額に差異があった。今後二度とこのようなことがないよう事務処理の適正化を図ること。	完了	平成28年3月	公営企業(病院)	
17	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	看護部に係る休暇承認について	前回定期監査以後も職務権限規程の条項は整理されておらず、現状の運用は職務権限規程違反となっているため、今後は速やかに職務権限規程の条項を整理し、運用の実態と規程に齟齬が生じないように改めること。	完了	平成28年4月	公営企業(病院)	
18	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	物品購入(修繕)発注伺いについて (1)見積書の徴取等と特名随意契約について	十分に修繕内容等を精査し、真に必要な案件のみを特名随意契約とし、やむを得ず特名随意契約を行う場合は必ず特名理由書を作成してその理由や必要性を明らかにした上で行うようにすること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	
19	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	物品購入(修繕)発注伺いについて (2)物品購入(修繕)の事務の流れと発注方法等について	日付のない見積書の添付された物品購入(修繕)も含めて、多くの修繕が事前発注、後追い起票の形で行われており、こういった発注手法によって適正な業者選定、価格決定が確保されるのか疑問であり、外部から大きな疑念を抱かれないよう、本来定められた手続きに従って発注を行うように事務手続きを改めること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	
20	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	物品購入(修繕)発注伺いについて (3)発注業者の選定等について	修繕契約・備品購入において、同一業者に特名で発注しているケースが多数見られ、発注先も特定の業者に偏る傾向が見られ、特名随意契約金額の範囲を超えないよう故意に分割発注しているのではないかと疑念を抱かざるを得ない案件もあるため物品購入(修繕)事務の流れ、特名随意契約の考え方等について院内で共通認識を持ち、物品購入(修繕)事務の適正な執行体制を構築すること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	

No.	年度	種類	監査結果報告日	担当部名	担当課名	意見等・指摘項目	概要	対応状況	完了時期 (完了予定時期)	会計区分①	会計区分②
21	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	医療機器の賃貸借契約について	契約書は契約開始後に作成されたと解されるものがあつたが、患者が治療目的で継続的に使用している装置の賃貸借契約であり、追償のないように万全を期す必要があるため、契約案件について相互チェック体制を構築するなど再発の防止に努めること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	
22	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	印刷契約等について	指名業者選定に際しては、同一業者に偏らないよう配慮し、合理的な理由のない指名業者の固定化は避けるよう改善を図るとともに、特名随意契約により契約締結した件についても、競争入札に付すことが可能であると考えられるものがあつたことに加え、同一帳票の増刷を年2回～4回発注しているものがある等、十分な在庫管理ができていないとの印象を強く受けた。スケールメリットを考慮した計画的な発注に努めること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	
23	27	定監	H28.4.12	市立病院	市立病院	固定資産台帳の整備について	現在の備品と備品台帳の照合確認調査のスピードを上げ、早期に現状と整合した備品台帳となるよう努めること。	完了	平成31年3月	公営企業(病院)	
24	28	決算	H28.8.26	市立病院	市立病院	経営状況について	早期の単年度損益の黒字化に向けて、引き続き損益改善に取り組むこと。	その他・対象外		公営企業(病院)	
25	28	決算	H28.8.26	市立病院	市立病院	中期計画の進捗状況報告等について	アクションプランの目標値の中には、中期計画の進捗状況を点検・評価するには十分とは言えないものがあり、また、収支計画においては、約6億3,200万円もの乖離が生じる結果となっており、平成28年度中に策定の新改革プランは進捗状況の点検・評価が適切に行えるような計画となるよう努めること。	その他・対象外		公営企業(病院)	
26	28	決算	H28.8.26	市立病院	市立病院	長期修繕計画の進捗結果について	長期修繕計画について、建築部分については修繕がほとんど行われていない状況となっており、今後財務的な理由で修繕が滞ることのないよう財政当局とも十分な協議を行い、収支計画に裏打ちされた病院保全計画の下、適切な修繕を行っていくよう努めること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	
27	28	決算	H28.8.26	市立病院	市立病院	経営効率の検証について	病院事業においても指標の検討を行う必要があると考え、また原価計算書については、診療科ごとの正確な損益に近づくよう、今後も収益の配分方法及び費用での共通部門の配分方法等について検討を重ね、この資料が経営改善に資するものとなるよう努めること。	その他・対象外		公営企業(病院)	
28	28	決算	H28.8.26	市立病院	市立病院	減損会計について	減損会計における減損の兆候把握の方法について、減損の兆候なしと判断できるかどうかについて、引き続き検討が必要である。	完了	平成31年3月	公営企業(病院)	
29	28	決算	H28.8.26	市立病院	市立病院	未収金対策について	担当者が交替となった場合等においても交渉経過等の記録は重要な情報であるため、確實・詳細に記録し、遺漏がないようにし、債権の状況を常に把握するとともに、弁護士事務所との連携も密にし、債権管理マニュアルに基づく迅速な取組みを行うことにより未収金を減らすとともに、安易な債権放棄とならないよう、適切な債権管理に努めること。	完了	平成29年3月	公営企業(病院)	
30	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	経営状況について	早期の単年度損益の黒字化に向けて、引き続き経営改善に取り組むこと。	その他・対象外		公営企業(病院)	

No.	年度	種類	監査結果報告日	担当部名	担当課名	意見等・指摘項目	概要	対応状況	完了時期 (完了予定時期)	会計区分①	会計区分②
31	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	退職給付債務の見込差額について	大きな差額が出ない計算方法等について検討し、止むを得ず大きな差額が生じた場合にも、速やかに修正予算で対応する等、実態を反映した正確な決算書となるよう努めること。	完了	平成29年9月	公営企業(病院)	
32	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	医業費用の増加について (ア)給与費等について	宝塚市立病院改革プラン2017における平成29年度の給与費比率57.2%を達成するには、大幅な給与費の削減又は医業収益の増加が求められる。具体的な方策を、今後検討していく必要がある。	その他・対象外		公営企業(病院)	
33	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	医業費用の増加について (イ)材料費について	材料費のうち、薬品費が大幅に増加している。今後、材料費についても医業収益に見合った適切な水準となるような対策が必要なのではないか。	完了	平成30年3月	公営企業(病院)	
34	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	受託研究費等の使途について	購入した器械備品(ノートパソコン)の機種決定方法を確認したが、本当に当該機種でなければならぬ理由があるのか疑問を感じざるを得ず、仕様基準に基づき選定を行うべきではないかと考える。	完了	平成30年3月	公営企業(病院)	
35	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	修繕費から固定資産勘定への振替について	修繕費から固定資産への振替は明確な基準、運用の下になされるべきである。基準の見直し等も含めて、今後、適切な固定資産への振替となるよう検討すること。	完了	平成30年3月	公営企業(病院)	
36	29	決算	H29.8.25	市立病院	市立病院	未収金対策について	弁護士事務所へ債権回収を依頼した後も、債権管理マニュアルに基づく早期対応を前提とした取組を促進することによって、安易な不能欠損処理や債権放棄とならないよう、適切な債権管理に努めること。	完了	平成31年3月	公営企業(病院)	
37	30	決算	H30.8.23	市立病院	市立病院	経営状況について	当年度決算について、平成27年度決算で計上すべき退職給付債務の見込差額が平成28年度に計上された影響を除くと、収支が前年度よりも悪化したこととなることに留意する必要がある。給料表や手当の在り方などの現状分析や見直しを進めるとともに、医師確保とそれ以外の方策にも積極的に取り組むなど、経営改善に努めること。	その他・対象外		公営企業(病院)	
38	30	決算	H30.8.23	市立病院	市立病院	医師の退職等による医業収益への影響について	医師の大量退職の影響により診療報酬の大幅な減少につながっており、病院事業の医業収益にも大きな影響を与える結果となっている。医師の採用にあたっては、病院の経営に資する診療科も考慮した上で、採用を決定していく必要があるのではないか。	完了	平成31年4月	公営企業(病院)	
39	30	決算	H30.8.23	市立病院	市立病院	一般会計からの繰出金の積算方法について	市も厳しい財政状況の中で病院事業への繰出しを行っている状況を鑑み、繰出金の積算については、病院事業においても積算に算入すべき収入はないか、適切に按分された人件費が計上されているか等厳密に行うよう努めること。	完了	平成30年11月	公営企業(病院)	
40	30	決算	H30.8.23	市立病院	市立病院	時間外勤務の状況について	時間外勤務の上位20名のうち15名は前年度と同一人物となっており、そのうち10名は前年度より時間外勤務が増加している。業務が偏っているためあれば体制を見直すことも必要である。また、時間外勤務手当の金額は前年度よりも614万円増加していた。引き続き時間外勤務の削減に取り組むこと。	その他・対象外		公営企業(病院)	

No.	年度	種類	監査結果報告日	担当部名	担当課名	意見等・指摘項目	概要	対応状況	完了時期 (完了予定時期)	会計区分①	会計区分②
41	30	決算	H30.8.23	市立病院	市立病院	減損会計について	病院事業ではキャッシュ・フローでしか減損の兆候の有無の判定を行っていなかった。市立病院においても「業務活動から生じる損益」を毎年度把握し、適切に減損の兆候の有無を把握するとともに、今後は決算書の「注記事項」にその旨を記載すること。	完了	平成31年3月	公営企業(病院)	
42	30	決算	H30.8.23	市立病院	市立病院	未収金対策について	債権放棄を行った債権上位10名について確認したところ、取組が不十分と思われる事例があった。今後は、弁護士事務所に債権回収を依頼する以前の段階で現地調査や臨戸訪問を行い、安易な債権放棄とならないよう努めること。	完了	平成31年3月	公営企業(病院)	